



2009年11月8日
号外

民主党プレス民主編集部

〒100-0014
東京都千代田区永田町1-11-1
電話03-3595-9988 (代表)
press@dpj.or.jp
http://www.dpj.or.jp

明日の日本 生活が第一

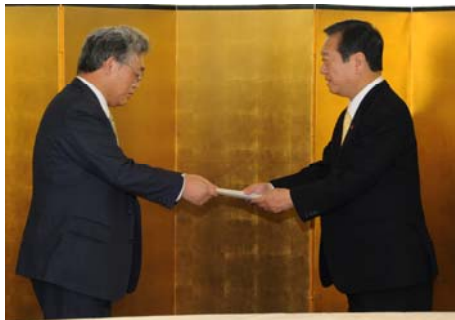
小沢幹事長「国会審議活性化等 に関する緊急提言」を受ける

小沢一郎幹事長は4日午後、都内で佐々木毅共同代表（元東京大学総長）ら「新しい日本をつくる国民会議」（21世紀臨調）のメンバーと会談。

国会審議活性化等についての提言を民主党が10月16日に要請したのに対し、21世紀臨調から「国会審議活性化等に関する緊急提言～政権選択時代の政治改革課題に関する第1次提言～」が示されました。

提言は、21世紀臨調の学者有志による「政権選択時代の政治改革課題に関する検討小委員会」（座長＝佐々木毅代表）が組織され、21世紀臨調の年来の主張を再整理し、新たな知見を加えて取りまとめられたものです。

小沢幹事長は会談後に記者団に、「大変貴重な、示唆に富んだご意見があったと感じている。できる限り、今回の提言を参考にさせていただきながら、与野党が合意できるもの、まとめられるもの、それを順次実行して参りたい」と表明しました。



「今行われている予算委員会でも、総理はじめ国務大臣もほとんど、官僚のペーパーを読むのではなく、自分自身の意見で答弁されている。従って、今後も、国会の審議は国民の代表たる政治家同士が、自分自身の見識に基づいて国民のために議論していく国会にしていきたい」との見解も幹事長は明示しました。

そのうえで、「党内、そして各党の議論が煮詰まり次第、できれば可能なものから今国会で成案を得たいと思っている」と述べました。

衆院予算委員会開かれ、鳩山総理 はじめ閣僚ら「政治主導」で答弁

11月2、4、5日の3日間、衆院予算委員会が開かれ、海江田万里、平岡秀夫、山口壮各議員が質問に立ちました。6日からは参議院に舞台を移して予算委員会が行われ、平野達男議員から質問がスタート。「税金のムダ遣い」排除をはじめとする民主党のマニフェストや外交問題など、国民の立場から鳩山由紀夫総理大臣（代表）をはじめ、関係閣僚の見解を質しました。



一方、各閣僚は官僚のサポートを受けずに答弁。民主党が掲げる「政治主導の国会運営」を早速実践するかたちとなりました。

鳩山由紀夫総理は2日夕、首相官邸で記者団に対し、総理として初めて臨んだ衆院予算委員会の感想について、「最初はかなり緊張した」としつつも、「国民の皆さんに政治家同士の論争をしっかりと見て頂けたとしたら、国会が少しずつ変わってきたと理解をされると思う」と振り返り、今後さらに活発な論争ができると展望を語りました。

鳩山由紀夫総理は2日夕、首相官邸で記者団に対し、総理として初めて臨んだ衆院予算委員会の感想について、「最初はかなり緊張した」としつつも、「国民の皆さんに政治家同士の論争をしっかりと見て頂けたとしたら、国会が少しずつ変わってきたと理解をされると思う」と振り返り、今後さらに活発な論争ができると展望を語りました。

国会議員候補者を公募

鳩山内閣は官僚に頼らず、政治家主導で国民生活の立て直しに奔走しています。政治家主導ということは、政治家が今までのような「権威の象徴」ではなく、「働き、機能する存在」になるということです。まだまだ成果を問う段階ではありませんが、明らかに政治家の意味が変わりつつあると自負しております。

民主党は、このたび「働く政治家」を志す仲間を募集します。くわしくは、民主党ホームページに掲載されている告知をご覧ください。

<http://www.dpj.or.jp/special/koubo/index.html>